

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077300160
法人名	有限会社 ユリックス
事業所名	グループホームゆり苑
所在地	(電 話) 0943-75-9520

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成20年5月30日	評価確定日	20年 7月 4日

【情報提供票より】 (平成20年5月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 6月 26日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 11人 非常勤 6人 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000(水光熱費)円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年5月15日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂本内科医院、田主丸中央医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

バス通りから少し入った所に位置する、平屋建て2ユニットの事業所である。庭からは耳納連山が見え、周囲は新興住宅が立ち並ぶ街並みで、利用者には程良い散歩コースになっている。「利用者が、いつも主役・主体」の理念を基に、利用者が有する能力に応じて、ゆっくり・自由に自立した日常生活が送れるように、職員が一体となって、家庭的な温もりあるケアに取り組んでいる。月1回、「結の会」という利用者の会を開催し、利用者の自己決定を尊重している。また、家族には、毎月利用者の写真入り、手書きの便りを送付し、利用者個々のアルバムづくりにも取り組む等、利用者の状況を密に知らせている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題の災害対策について、地域住民への呼びかけについての具体的な方法を推進会議で検討するなど、改善に取り組んでいる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が骨子を作成し、全職員で協議することによって評価の意義を理解している。話し合いを基に、管理者・施設長で集約し、全職員の意識化を図っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、現状や今後の活動計画を報告している。出席者からは意見や要望・助言をもらい、ターミナルケアや献立等について、事業所のサービス向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱の設置、来訪時に声かけする等、積極的に家族の意見や要望など聴取するよう努めている。第三者相談窓口は利用開始時に説明している。ターミナルケアや地域住民の避難訓練への参加協力等について、家族からの意見を運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議を通じて事業所便りを配布している。祭りや、年2回ある道路掃除に参加して地域との交流に努め、小学校の運動会への見学参加や地域の人の事業所見学・ボランティアを受け入れている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の視点を含んだ事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を日々共有し、朝礼・ミーティング時に、理念から具体的なケアについて意見の統一を図り、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通じて事業所便りを配布している。祭りや、年2回ある道路掃除に参加して地域との交流に努め、小学校の運動会への見学参加や地域の人の事業所見学・ボランティアを受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が骨子を作成し、全職員で意見を出し合い討議して管理者・施設長で集約している。外部評価は、前回の改善課題の災害対策について、地域住民への呼びかけについての具体的な方法を推進会議で検討するなど、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、現状や今後の活動計画を報告している。出席者からは意見や要望・助言をもらい、ターミナルケアや献立等について、事業所のサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回事業所便りを持参して、運営や利用者の状況報告等を相談しながら、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所はパンフレット・テキストを整備し、月1回のカンファレンスで全職員に学習会を行っている。家族には契約時に制度の説明をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の事業所便りと請求書を併せて、担当職員作成の写真入り手書きの手紙を同封して、家族に郵送している。利用者一人ひとりのアルバムも作っている。金銭管理については各自の出納帳に原本領収書を添付、来訪時にサインをもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、来訪時に声かけする等、積極的に家族の意見や要望など聴取するよう努めている。第三者相談窓口は利用開始時に説明している。ターミナルケアや地域住民の避難訓練への参加協力等について、家族からの意見を運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者が馴染みの職員による支援が継続できるよう離職を最小限に抑える努力をし、やむを得ない離職の場合は、担当職員より利用者・家族に便りでも知らせている。また引き継ぎ期間は十分にとり、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては性別や年齢で排除するのではなく、やる気のある人を採用している。職員の自己実現が保証されるように、スタッフの希望を取り入れ勤務を組む等、安心して働ける職場環境を目指し取り組んでいる。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者は人権教育の重要性を認識し、内部研修としてテキスト・パンフレットなどを使い、カンファレンス時に全職員で人権に関する学習会を行っている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、目に付く場所に研修案内を張り出し、全職員が日常的に学ぶ事を推進している。職員は希望する外部研修を受講できるよう、勤務調整している。研修内容については全職員が共有できるように伝達講習を行っている。働きながら資格を得ることができる。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>老人福祉施設協議会や地区ブロック介護サービス事業連絡会に加入している。月1回、管理者及び職員は事業所同士の研修会・視察や交流会をもち、お互いに事例発表を行い、サービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前の見学・ショートステイや、職員の自宅・病院訪問を行い、馴染みながらの利用ができるよう家族等と相談しながら工夫をしている。また、やむを得ず即利用の場合は、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう食事・レクレーションに、家族が共に過ごしてもらうなど工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と一緒に箸の皮むきなど食事の前準備をしたり、干し柿作りで縄のかけ方を教えてもらったりして、利用者の得意分野から学んでいる。また職員と利用者が共に過ごす中で、利用者の家族が亡くなれば悲しみを分かち合うなど、互いに支え合う関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の関わりのなかで利用者の言葉・表情を通して、思いや意向の把握に努め、意思疎通が困難な場合は、利用者と手を繋いだり、歌を唄ったりしながら思いを推し量り、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一人ひとりその時点にそった個別具体的な計画を本人や家族、職員の気づきや意見、アイデアを反映しながら作成している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用開始から2～3週間後の見直しと3ヵ月後のモニタリングを行い、6ヵ月毎に介護計画書を作成をしている。また利用者の状態変化や状況に応じて随時の見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援を行い、利用者の入院にあたっては、事業所・家族・利用者・医療機関と連絡・連携を図り、早期退院に取り組んでいる。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医や希望する医療機関への受診支援をしており、受診時の通院介助方法、情報の伝達方法について話し合い合意している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についての対応指針があり、事業所が対応できる事を家族等へ説明し、利用者・家族等の意向を大切にしながら、本人、家族、かかりつけ医、職員で度々話し合い合意を図り方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常のカンファレンスや内部勉強会で利用者の誇りやプライバシーについて職員の意識向上を図っており、諸場面での声掛けや対応について誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮し、その日その時の気持ちを大切にしながら散歩や買い物など柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は一緒に準備し、同じ食事を同じテーブルで食べている。職員は利用者全員を見守りながらさり気なく介助し、家庭的で自然な雰囲気づくりに努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望に合わせ、毎日入浴できるよう支援している。入浴拒否の利用者にはその原因を探るなどし、声掛けの内容の工夫や、タイミングを図ったり、別の職員が声をかける等で入浴を促し、入浴が楽しめるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>職員は利用者の出来る事や得意な事を把握し、洗濯物たたみ、食事の準備、花の水遣りや草取り、レクリエーションなど楽しみごとも含めて一人ひとり支援している。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>職員は外出の意義を理解しており、天気や体調に応じて、毎日の散歩、週1回以上の買い物、概ね2ヶ月1回の外食、1～2週間に1回のドライブ等を行っている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>運営者及び全ての職員は鍵をかける事の弊害を理解しており日中、居室や玄関には施錠していない。外出傾向のある利用者は把握しており、見守りの連携ができています。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害対策マニュアルがあり、消防署の協力を得て、年2回、防災訓練と緊急時の対応についてを実施訓練している。訓練には地域住民へも声をかけ運営委員の参加もある。また非常食・飲料水や備品なども準備している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が概ね月1回チェックしている。また利用者の嗜好にも配慮し、好みのものも献立に取り入れるなど柔軟に対応している。利用者全員の食事量や水分摂取量も記録がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間ではすだれを利用する等、光や温度・湿度に注意を払い、明るく快適な空間である。リビングには1段高めの畳敷があり、テレビや小引き出し・整理箱があり、季節の花も飾られている。テーブルの両脇にはソファを置き居心地よく過ごせるよう工夫している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は希望により和室、洋室を選べる。ベッドを始め殆どは家族持ち込みで、整理筆筒、テレビ、テーブル、整理箱、時計、鏡台など思い思いのものが、利用者の個性が感じられる居室になっている。		

※ は、重点項目。